

HIV 検査相談研修会実施が HIV 検査相談体制における  
地域連携にもたらした効果  
—派遣カウンセラーの視点から—

飯田 昌子

**The effect of seminars on regional collaboration in HIV testing and counselling:  
a counsellor's viewpoint**

**HIDA, Masako**

**Abstract**

The number of HIV/AIDS patients is increasing in Kagoshima Prefecture, and improved skill in HIV testing and counseling is called for. This study makes an examination of the planning and running of seminars about HIV testing and counseling from 2014 to 2016. The purpose of this study is to examine the influence of seminars on regional collaboration in Kagoshima Prefecture, and the significance of having AIDS counsellors in Kagoshima Prefecture engaged in planning the seminars.

I examined the seminar process from the following points: (1) previous meetings of seminar planners, (2) meetings of planners and lecturers based on the survey conducted previous to seminars, (3) seminar programs, (4) discussion between the planners and lecturers based on the survey conducted after the seminars. I engaged in planning seminars as a counsellor hired by Kagoshima Prefectural Government.

Seminar content included lectures on HIV infection and role-playing for improving the skill of HIV testing and counseling. Participants exchanged opinions about HIV testing and counselling.

Participants seemed to be satisfied with the seminars. Because the seminar planners had chosen lecturers of seminars who were in Kagoshima Prefecture, it was considered that planners and lecturers could pick up problems about HIV infection in Kagoshima Prefecture and that a collaboration of HIV professionals had resulted from the seminars. It was significant that the counsellors could devise hypothetical cases about HIV/AIDS patients. Therefore, it seemed that the seminars were useful for participants to engage in HIV testing and counseling based on the characteristics of people requesting such testing and counseling, and for collaboration between public health centres and hospitals to enhance while maintaining patient anonymity. The enhancement of HIV testing, the HIV counseling system including prevention programs in Kagoshima Prefecture is important.

**Keywords** : HIV testing and counseling seminars, regional collaboration, AIDS counselor service

**要旨**

近年、鹿児島県においても新規 HIV 感染者及びエイズ患者数は増加傾向にあり、HIV 検査相談担当者のスキルアップが求められている。本研究では、本県で開催した2014年度から2016年度までの HIV 検査相談研修会の実践過程を検証し、HIV 検査相談体制における地域連携にもたらした効果と、派遣カウンセラーが研修会の企画運営に携わることの意義について検討することを目的とした。方

法は、2014年度研修会立ち上げまでの経緯と、2014年度から2016年度の3年間の研修会の実践過程を検証した。3年間の実践過程については、主に①企画者による事前協議、②研修会参加希望者への事前アンケート結果を踏まえた企画者と講師による事前打ち合わせ会、③研修会当日、④研修参加者に実施した事後アンケート結果を踏まえた企画者と講師による振り返り会、の4点から検討した。筆者は派遣カウンセラーとして研修会の企画運営に携わった。

研修内容は、知識の習得を目的とした講義と、検査相談対応に必要なスキル向上を目的としたロールプレイや情報交換を目的としたグループディスカッションとした。また、様々な職種の講師を全て県内から選出した。

その結果、研修会参加者からは研修内容に対して概ね良好な評価が得られた。研修会実施が地域連携にもたらした効果として、県内から講師を選出したことで、本県の課題を抽出することが可能となり、関係者間の連携強化につながり、さらには県主導の地域連携につながったと推察された。また、派遣カウンセラーが研修会の企画運営に携わることの意義として、ロールプレイにおける仮想事例の設定を工夫できたことで、個別性の高いHIV検査相談対応を学ぶ研修参加者のスキルの向上の一助となったこと、受検者の匿名性を保持した保健所と医療機関の連携を強化することが可能となったと思われる。今後は本県における予防啓発を含めたさらなる検査相談体制の充実を図ることが重要であろうと思われる。

キーワード：HIV 検査相談研修会、地域連携、派遣カウンセラー

## 1. 背景と問題

2016年5月に公表されたエイズ発生動向年報の確定値によると、エイズ発生動向調査（サーベイランス）が開始されてから2015年までの累積報告件数は、ほぼ26,000件に達した。また、2007年以降は常に新規HIV感染者・エイズ患者合計で年間1,500件前後の報告が続いており、高止まりの状況が続いている。近年の医学の進歩により、HIVに感染しても早期に適切な治療を受けていればHIV陽性者はエイズ発症を遅らせたり、健康を回復、維持したりできるようになってきた。したがって、感染の早期発見、早期受療はHIV陽性者にとって大きな利益をもたらすと言える。ところが、年間の新規報告件数に占めるエイズ患者の割合は2005年以降、30%近い高値を示し続けており、男性異性間性的接触による感染に限れば40%前後を推移している。このことは、HIVに感染しているものの早期受療がなされず、エイズ発症に至った者が数多く存在することを意味している。近年、マスコミ等でHIV/エイズを取り上げる機会が減ってきて社会一般のHIV/エイズに対する関心が低くなり、自らのリスクや感染そのものに気づかない人の増加も懸念されている（嶋他，2006）。治療薬の著しい進歩がみられた今日、早期に検査を受けることはHIV陽性者本人とそのパートナーのみならず、社会全体の利益になると考えられるため、HIV検査体制の充実が緊急の課題と言えよう。

現在、我が国におけるHIV検査は、保健所等における無料匿名の公的検査、病院・クリニックにおける診療に係る検査、NGOによるイベント検査、郵送検査、自己検査等といった方法がある。その中でも、自治体が保健所等において公費で実施しているHIV検査相談事業は、個人がHIV感染状況を認識するのをサポートし、早期発見、早期受療により発症および重症化を防止するとともに、感染予防への行動変容をサポートするプログラムとして位置づけられ、社会における感染拡大の防止の観点からも中核的な施策の1つとなっている（佐野・加藤・

今井, 2015)。

### 保健所等における HIV 検査相談のこれまでの経緯と現状

保健所における HIV 検査は1987年に開始され、当初は匿名・有料であったが、我が国の HIV/ エイズの情勢から1993年に無料化された。2006年に、厚生労働省は6月の第1週を「HIV 検査普及週間」と創設し、広く国民に HIV 検査の受検を呼び掛けることとなった。さらに、2012年に改正された「後天性免疫不全症候群に関する特定感染症予防指針」では、検査相談体制の充実が、正しい知識の普及啓発、教育及び医療の提供とともに重要施策として位置づけられることとなり、自治体は地域の実情に応じた、利便性の高い検査相談体制の充実を求められている。

エイズ動向委員会で報告された保健所等における HIV 検査件数の推移をみると、2004年に夜間土日検査および HIV 即日検査の導入が推進されて以降は、年々検査件数が増加し、2008年には17万件を超えたものの、2009年以降減少し、2015年まで約13万件で横ばいに推移している。一方、エイズ動向委員会の HIV 感染者報告数に対する保健所等での陽性件数の割合は45%前後であり、佐野他(2015)は、HIV 感染者報告数の約半数は保健所等で陽性と判明していると推察している。また、HIV 検査を実施している全国の保健所・支所・保健センター(以下、保健所)へのアンケート調査によれば、保健所における HIV 検査では、陽性結果を93%の人に伝えることができおり、そのうち85%の人については医療機関への受診が把握できていた(佐野他, 2015)。一方、近年検査数が伸びている HIV 郵送検査は、2014年にはその年間検査数が77,588件であり、保健所検査数の50%を超えてきている。しかし、郵送検査により陽性となった検体のうち、郵送検査会社が電話やメールによって直接受検者に医療機関を紹介した件数は、2012年から2014年の間では20%~34%、郵送検査会社が医療機関での受診を確認できた件数は同期間において2.7%~4.7%にとどまるという(須藤・佐野・近藤・今井・加藤, 2015)。

以上のことより、日本で初めてのエイズ患者が確認されてから現在に至るまで30年にわたり、保健所における HIV 検査相談事業は、課題は未だ残しているものの、HIV/ エイズ対策の一環として時代に応じた対策を講じ、検査希望者においては重要な検査窓口となっていると言えよう。

### HIV 検査相談研修の重要性と意義

矢永・今井・加藤(2014)は、HIV 検査相談の役割の一つに、HIV 感染が判明した受検者の心理社会的な側面を支援しつつ医療機関へ紹介し早期受療へと繋げ、受検者のニーズに応じた検査後に地域における専門機関を紹介するケアの部分を挙げている。HIV 感染判明時は、受検者にとって HIV に直面する最初の場面である。この場面で HIV 感染症の正確な情報や HIV 治療の見通し、医療機関受診の重要性が提示されることは、その後続く長期療養を迎える上で重要なスタートとなる。

井上・高久・矢島・生島(2015)は、陽性告知を受けた経験のある者を対象として HIV 感染告知担当者の対応についての評価を検証した。その結果、「信頼できる感じがした」、「私の

気持ちを配慮していた」等と回答した者の割合は高かったものの、「自信がなさそうだった」等と回答した者も約25%存在することが明らかとなった。このことから HIV 検査相談体制の充実には、受検者が安心して相談できるような態度といった、HIV 検査相談担当者（以下、検査相談担当者）の適正な対応が重要であると考えられる。

検査相談担当者の対応の質の向上のための1つの方策として研修による介入が考えられる（矢永，2009）。研修は、検査相談担当者が受検者の状況について理解を深め、相談内容に応じた対人援助スキルを系統的に学ぶ機会を提供し、援助における人材を養成する場となる可能性をもつ（矢永他，2014）。実際に、検査相談担当者のスキル向上を目指した「HIV 検査相談研修ガイドライン」が作成され、「基礎編」（今井他，2008）、「実践基礎編」（今井他，2009）、「実践応用編」（加藤他，2010）の3段階で構成されている。特に「実践基礎編」は、①業務に必要な知識を学ぶ講義、②業務に近い形のロールプレイを含むグループワーク、という2本立てで構成されており、検査相談の対応を総合的に学ぶことでスキル向上を目指している。

研修会実施による効果として、矢永他（2014）は、検査相談担当者のスキルの向上に加えて、地域単位で開催することで地域の HIV 関係者のネットワークの形成を促進する場としても期待できると指摘している。しかし、研修会を自地域でどのように企画運営し、実施するののかについての実践的な報告や、そのような研修会の実施が地域連携にもたらす効果についての検討はこれまでになされていない。

そこで本研究では、2014年度から2016年度までの鹿児島県 HIV 検査相談研修会（以下、研修会）の実践過程を検証し、地域連携にもたらした効果について検討することを目的とした。なお筆者は、2001年に始まった「鹿児島県エイズカウンセラー派遣事業」に2008年より登録し、派遣カウンセラーとして県内の保健所や中核拠点病院を含む医療機関において受検者ならびに HIV 陽性者への心理的援助を行っている。この立場から、派遣カウンセラーが研修会の企画運営に携わることの意義についての若干の考察を加えた。これらの検討を通して、派遣カウンセラーが研修会に携わる際の一つのモデルを提供することにつながると考えられる。

## 2. 方法

2014年度研修会立ち上げまでの経緯と、2014年度から2016年度の3年間にわたる研修会の実践過程を検証した。3年間の実践過程については、主に①企画者間による事前協議、②研修参加希望者への事前アンケート結果を踏まえた企画者と講師による事前打ち合わせ会、③研修会当日、④研修参加者（以下、参加者）に実施した事後アンケート結果を踏まえた企画者と講師による振り返り会（2015年度と2016年度）、の4点から検討した。事後アンケートは「良かった点」、「改善点」、「要望や感想」の3項目について自由回答を求めた。なお、県内保健所及び医療機関等に本研修会開催を周知した。

## 3. 結果

### 3-1. 2014年度研修会立ち上げまでの経緯

2014年に、筆者は本県保健福祉部健康増進課担当職員（以下、県担当者と略す）と共に、厚生労働省科学研究費補助金エイズ対策研究事業「HIV 感染症の医療体制の整備に関する研究」

班の「九州ブロック HIV 検査相談研修会講師養成会議」ならびに福岡県の「HIV・エイズ検査相談研修会」に参加する機会を得た。これらの会で自らも検査相談対応の研修を受けると同時に、研修会の企画運営上の留意点等について学んだ。その後、筆者と県担当者として本県の課題や研修会のありかたについて協議した。

まず、本県の課題として、①新規 HIV 感染者及びエイズ患者数は増加傾向にあること、②新規報告数に占めるエイズ患者の割合は全国平均を上回る40%を超える年もあること、③早期受療に結びつけるための検査相談担当者の質に焦点を当てた研修をこれまでに行っていないこと、の3点を抽出した。次に、本県におけるこれまでの研修会について振り返った。本県では2010年より県保健福祉部健康増進課主催の研修会が年1回開催されてきた。2013年度までは、県内外の講師による講義形式で行われ、「HIV 検査や HIV 感染症の基礎知識」、「HIV 陽性者が暮らしやすい地域社会のありかたについて」など、内容が年度によって異なるテーマでの研修であった。HIV/エイズという疾病は一つの性感染症という医療領域の枠組みにとどまらず、保健や福祉、教育といった様々な領域と複雑に絡み合っていることから、毎年異なるテーマで研修会を企画することも必要ではあった。しかし、本県特有の課題をより反映させた研修会を企画することも重要であろうと考えられた。

そこで、2014年度は筆者と県担当者が研修会の企画者となって、「実践基礎編」を参考に、本県の課題を反映させた、検査相談担当者のスキル向上を目的とした研修会を開催することが決まった。

なお、本県内には、鹿児島市保健所が1か所、鹿児島県保健所が13か所あり、原則として無料、匿名、即日検査を実施している。即日検査では、スクリーニング検査実施後、結果を検査当日に受検者に通知する。スクリーニング検査結果が陰性の場合には、即日で検査通知が完了するが、判定保留の場合には確認検査が必要となり、受検者は確認検査の結果を聞くために、後日再度来所する必要がある。

## 3-2. 2014 年度研修会について

### 3-2-1. 企画者間による事前協議

まず、県担当者から筆者へ、2013年度研修会までと同様の3時間弱の時間枠で、「実践基礎編」を参考にした研修内容の検討が依頼された。筆者は、研修目的を「受検者の持つ様々な心理的背景やニーズを理解した上で検査相談対応のありかたを参加者同士で考えること」とし、研修内容を①検査相談対応に必要な知識と受検者の思いを学ぶ講義、②①を踏まえたロールプレイ、の2点を軸とすることを提案した。また、本県が抱える検査相談体制の問題に焦点を当てるためには県内から講師を選出することが必要であることも提案した。県担当者からこれらの提案が了承されたため、筆者は本県の中核拠点病院（以下、中核拠点病院）医師、NPO 法人 Rin かがしま（以下、Rin かがしま）、鹿児島市保健所保健師（以下、市保健師）、中核拠点病院相談員に研修目的を伝え、講師業務を依頼した。なお、本研修会立ち上げまでの経過を把握している派遣カウンセラーである筆者も講師を担当することとした。

### 3-2-2. 企画者と講師による事前打ち合わせ会

企画者と講師の一人である市保健師による事前打ち合わせ会を開催した。まず、参加希望者への事前アンケート結果を確認した。参加希望者は56名で、保健師16名、看護師18名、医師11名などであった。そのうち回答が得られたのは42名であった（回収率75%）。研修会で学びたいことについて、「陽性告知時の対応を経験したことがないため、適切な対応が取れるようにアドバイスが欲しい」「感染を心配して来所（来院）した方への対応の仕方を知りたい」「医療機関等の情報を知りたい」といった記述が見られた。次に、筆者は派遣カウンセラーとして受検者の陽性告知時の様々な思いを傾聴してきた経験から、ロールプレイにおける仮想事例について、参加者が受検者の心理的背景やニーズをより想像しやすい場面設定を提案した。事前アンケートの結果と筆者の提案をもとに、プログラムと研修内容について協議した。なお本会后も、筆者と講師間で研修内容について繰り返し検討した。

### 3-2-3. 研修会当日

参加者は56名であった。プログラムと講師を表1に示した。ここではグループワークについて述べる。参加者は3人1組になり、受検者、保健師、両者の対話を観察する観察者の役割を担った。検査前相談場面として、「保健所に健康チェック程度の気持ちで来所した受検者」という仮想事例を提示し、ロールプレイを体験させた。その体験後、この時の受検者の気持ちと、保健師は受検者にどのような情報を伝える必要があったかをグループで議論させ、全体でシェアリングを行った。次に、陽性告知場面として、「保健所での迅速検査の結果、確認検査が必要と説明を受け、1週間後の本日、再来所した受検者が医師から陽性告知を受けた直後」という仮想事例を提示し、ロールプレイを体験させた。その体験後、受検者の気持ちと、保健師としての対応のありかたや留意点についてグループで議論させ、全体でシェアリングを行った。

表1 2014年度研修会プログラム

形態	タイトル	内容	講師
講義 (65分)	本県における HIV 感染者・エイズ患者の動向について	・全国及び本県の動向 ・本県の医療体制について	県担当者
	HIV・AIDS の基礎知識・早期検査の重要性について	・HIV 感染症の治療や対応 ・早期検査や早期治療のメリットとは何か	中核拠点病院医師
	告知を受けることについて	・陽性告知を受けた時の心理状態 ・検査相談対応者に望むこと	NPO 法人 Rin かごしま
グループワーク (90分)	保健所における検査について	・鹿児島市保健所における検査業務の実際 (ミニレクチャー)	市保健師
	検査相談場面における対応について	・ロールプレイ 検査前相談場面 陽性告知を受けた場面	ファシリテーター；派遣カウンセラー 協力スタッフ；中核拠点病院相談員、市保健師
	受検者理解について	・受検者の心理的背景について (ミニレクチャー)	派遣カウンセラー

表 2 2014年度研修会事後アンケート

	保健師	医師等	看護師
良かった点	<p><b>【講義について】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・基礎的な知識を得られた</li> <li>・当事者の話はとても参考になった</li> </ul> <p><b>【ロールプレイについて】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・陽性場面に従事したことがないので、とても有意義だった</li> <li>・相談対応について話す機会がないので良かった</li> </ul>	<p><b>【講義について】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・検査の流れを理解できた</li> </ul> <p><b>【ロールプレイについて】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・良かった</li> </ul> <p><b>【研修会全体を通して】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・フランクかつフレンドリーな雰囲気が良かった</li> </ul>	<p><b>【講義について】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・業務上の関わりが少ないので、新たな知識が得られた</li> <li>・当事者の実際の声を聞いてとても身近に感じられた</li> </ul> <p><b>【ロールプレイについて】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・患者、保健師役の気持ちや行動を知ることができて良い勉強になった</li> <li>・自分のこれからの業務に活かせると思った</li> </ul> <p><b>【研修会全体を通して】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・HIV 陽性でも慌てずにきちんと治療していけば普通に生活できることを学んだ</li> </ul>
改善点	<p><b>【研修時間について】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ロールプレイの時間が短い</li> <li>・研修時間に対して盛り込みすぎ</li> </ul>	<p><b>【研修時間について】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ロールプレイの時間が短い</li> </ul>	<p><b>【研修時間について】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ロールプレイの時間がもう少しあれば、自分の中で対応についてまとめができた</li> </ul> <p><b>【ロールプレイについて】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・職種の違いもあり、ロールプレイは難しかった、戸惑いが多かった</li> </ul> <p><b>【研修会全体を通して】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・利用者、保健師のやり取りの実際を教えて頂ければ院内での対応の際の参考になる</li> <li>・どちらかと言うと保健師さん向けの内容の気がした</li> </ul>
要望や感想	<p><b>【連携や情報交換】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・他職種や他機関の支援内容を知りたい</li> <li>・病院への具体的な紹介方法を知りたい</li> </ul> <p><b>【感想】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・当事者、医療機関、行政で協力して、県民に対して HIV 感染者、エイズ患者の正しい理解やエイズ感染予防が進むような効果的な取り組みを考えられたらいいなと思った</li> </ul>	<p><b>【連携や情報交換】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・職種別に集まるセッションの設定</li> </ul> <p><b>【感想】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・年に何回か必要だと思った</li> </ul> <p><b>【その他の要望】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・拠点病院と協力病院の機能の違いについて</li> <li>・一般向けの広報会でもロールプレイが必要</li> </ul>	<p><b>【連携や情報交換】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各施設での取り組みを知りたい</li> <li>・病院での対応についての情報が欲しい</li> </ul> <p><b>【感想】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・今後もこのような研修、ロールプレイは大事である</li> <li>・誰でもなり得る可能性があるため、自分も検査を受けてみたいと思った</li> </ul>

最後に受検者への理解をさらに深めるために、筆者が受検者の心理的背景について概説した。

事後アンケートへの回答が得られたのは45名であった（回収率80.4%）。表2に結果を一部抜粋した。職種を問わず概ね良好な評価が得られ、「陽性告知場面に従事したことがなかったの有意義だった」などの記述が多く見られた。改善点として、研修時間の短さと、看護師からはロールプレイへの取り組みの困難さについての記述が多く見られた。要望として、「他職種間、施設間、職種別での意見交換の時間が欲しかった」などの記述が見られた。

本研修会を振り返って筆者は、次年度の研修会においても検査相談に関する内容に焦点を当てつつも、①研修時間、②施設間における情報交換の場の設定、③ロールプレイにおける仮想事例の場面設定や内容、の3点についてさらなる検討の必要性を感じた。

### 3-3. 2015年度研修会について

#### 3-3-1. 企画者間による事前協議

県担当者から筆者へ研修内容の検討が依頼された。筆者は研修目的を前年度と同様とし、研修内容をさらに充実させるために、①受講対象を分けること、すなわち、講義は医師や看護師と保健師、グループワークは主に保健師を受講対象とすること、②施設間での情報交換の時間を設けること、③薬剤師による講義も加えること、の3点を提案した。また、前年度事後アンケートを踏まえて研修時間の延長も要望した。県担当者はこれらの提案を了承し、また、保健師と環境保健センター研究員による報告を加えることを提案した。協議の結果、研修時間は5.5時間に延長し、講師は中核拠点病院医師、同薬剤師、県環境保健センター研究員、Rin かごしま、鹿児島県保健所の保健師（以下、県保健師）、中核拠点病院相談員及び筆者とした。

#### 3-3-2. 企画者と講師による事前打ち合わせ会

企画者と講師の一人である県保健師による事前打ち合わせ会を開催した。まず、参加希望者への事前アンケート結果を確認した。参加希望者は35名で、保健師21名、看護師7名、医師2名などであった。そのうち、回答が得られたのは26名であった（回収率74.3%）。研修会で学びたいこととして、「HIV感染症に関する基礎知識や最新情報を得たい」「他機関との連携方法を知りたい」というものに加えて、「受検者を傷つけないための留意点を知りたい」「セクシュアリティへの理解を踏まえた上での対応のありかたを知りたい」といった記述が見られたことから、受検者の立場に立った対応方法への学びを期待していることが推察された。

筆者は、①グループワークにおいて個人ワークを加えること、②ロールプレイにおける仮想事例について、前年度よりも保健師がより想像しやすい場面設定のありかた、③ロールプレイ後に講師によるコメントや概説を加えること、の3点を提案した。次に県保健師から、①保健所から医療機関への紹介方法が分からずに困った、②保健所は医療機関の対応のありかたが分からないので受検者にどのように説明したらよいか分からなかった、という自験例が紹介された。筆者は派遣カウンセラーとして保健所と医療機関両方で業務する中で、受検者が安心して医療機関に掛かるためには、保健所から医療機関へスムーズに紹介することが必要であろうと考えていたので、保健所から医療機関への紹介方法について参加者全員で議論する場を設けることを提案した。事前アンケートの結果と筆者の提案をもとに、プログラムと研修内容について



て協議した。なお本会后も、筆者と講師間で研修内容について繰り返し検討した。また、筆者より研修会参加予定の検査相談対応の経験豊富な市保健師へ、自施設の取り組みを紹介してもらうことを依頼した。

### 3-3-3. 研修会当日

参加者は39名であった。プログラムと講師を表3に示した。ここではグループワークの個人ワークとロールプレイ及び全体討論について述べる。

まず、「もしも自分が HIV 陽性だと告知されたら、何が心配になるか、どんな気持ちになるかについて想像してみる」という HIV 陽性者を身近に感じることを目的とした個人ワークを行った。次に、参加者は3人一組になり、それぞれ受検者役、保健師役、観察者役を担った。検査前相談場面として、「HIV 感染リスクの高い行為をして、感染不安が続いていたため保健

表3 2015年度研修会プログラム

形態	タイトル	内容	講師
講義 (2.5時間)	本県における HIV 感染者・エイズ患者の動向について	・県内動向と県内保健所における検査件数と陽性率の分析	県担当者
	HIV・AIDSの基礎知識と最新情報、中核拠点病院における HIV 感染者の対応、早期検査の重要性について	・ HIV 感染症の治療や対応の仕方 ・ 早期検査や早期治療のメリット ・ 中核拠点病院におけるチーム医療体制	中核拠点病院医師
	HIV 感染症の薬物治療とその特徴	・ 治療薬選択の実際 ・ 薬剤師から見た薬物治療を妨げる要因の分析	中核拠点病院薬剤師
	セクシュアリティについて、告知を受けることについて	・ 陽性告知を受けた時の心理状態 ・ セクシュアリティと受検時の不安や緊張との関連	NPO 法人 Rin かごしま
グループワーク (3時間)	HIV 検査担当者向け研修会（東京）報告	・ 研修会報告	県保健師
	環境保健センターにおける HIV 検査について	・ 環境保健センターから見た HIV 検査の実際と問題点（ミニレクチャー）	県環境保健センター研究員
	HIV 陽性者を身近に感じる体験、HIV 検査における検査前相談対応、検査結果の告知時の対応	・ HIV 陽性者を身近に感じるための個人ワーク ・ 検査前相談場面と陽性告知を受けた場面における受検者と検査相談対応者のロールプレイ	ファシリテーター；派遣カウンセラー 協力スタッフ；中核拠点病院相談員、中核拠点病院薬剤師、県保健師、NPO 法人 Rin かごしま
	保健所から医療機関への紹介方法について	・ 保健所から医療機関への紹介方法に関する実際問題（全体討論）	司会；派遣カウンセラー
	施設間情報交換	・ 施設間の情報交換（グループディスカッション）	司会；派遣カウンセラー

所に来所した受検者」という仮想事例を提示し、ロールプレイを体験させた。その体験後、①受検者の気持ちと、どんなことを知りたいと思ったかについて、②保健師の気持ちと、受検者に何を伝えるべきかについて、グループで議論させ、全体でシェアリングを行った。筆者が対応のポイントについて概説した後、講師の県保健師が実際の業務場面で経験したことについて、そして、Rin かごしまと薬剤師が受検者の気持ちについてコメントした。次に陽性告知場面として、「実際に感染リスクのある行為はあったが、HIV 陰性を確認するつもりで来所した受検者が、医師から『陽性という結果が出ました』と言われて大きなショックを受けている」という仮想事例を提示し、ロールプレイを体験させた。その体験後、①受検者の気持ちと、どんなことを保健師に質問したかったかについて、②保健師の受検者に対する気持ちと、受検者にどんな対応を心掛けたかについて、グループで議論させ、全体でシェアリングを行った。そして筆者が対応のポイントについて概説した後、講師の県保健師が、日常業務において陽性告知を行う際、病院への紹介方法が分からずに困ったという体験を報告し、市保健師が自施設での取り組みについて紹介した。

次に、筆者が司会者となり、保健所から医療機関への紹介方法のありかたについて全体討論を行った。非常に活発な議論が交わされた結果、特定の保健所に受検者が集中しており、保健所によって医療機関への紹介業務の経験に差があることが明らかになった。例えば、受検者の多い保健所では、紹介状の書式や医療機関から返書をもたらう工夫などの体制がすでに整っていたが、受検者の少ない保健所では、①医療機関での治療や対応の実際が分からないので、受検者から医療機関について質問されても答えられない、②そもそも保健所は匿名検査なので、名前を知り得ない受検者をどのように医療機関へ紹介して予約をとるのが分からない、③紹介状をどのように準備したらよいのか分からない、という意見が多く出された。しかも、保健所間における業務経験の差による検査相談対応への影響について、県担当者も医療機関も把握していなかったことが明らかとなった。参加者の中から、県が主導して保健所と医療機関の紹介システムを作ってもらえないだろうか、という意見が出された。

#### 3-3-4. 企画者と講師による振り返り会

研修会終了直後に、県担当者と講師で本研修会の振り返り会を行った。参加者は8名であった。まず、全体討論で出された意見を具現化するために、県主導で保健所から医療機関への紹介方法について検討を開始することを確認した。次に、事後アンケート結果を確認した。回答が得られたのは34名であった（回収率87.2%）。表4に結果を一部抜粋した。職種を問わず概ね良好な評価が得られ、保健師からは、「ロールプレイをやってみて初めて感じることも多く、自施設でもやってみたいと思った」などのロールプレイに対する良好な評価の記述が数多く見られた。改善点として、「保健所から医療機関への紹介後の援助について踏み込んでほしかった」という記述が見られた。感想として、「この研修は毎年続けてほしい」「担当業務を問わず県内保健師は全員受講できるようにしてほしい」といった記述が見られた。

これらの結果から、次年度の研修会では当年度と概ね同様の内容に加えて、医療機関の中でも特に中核拠点病院におけるチーム医療の実際がより詳細に分かるような講義も設けることで、保健所と医療機関の連携強化を図る内容にすることを確認した。

表 4 2015年度研修会事後アンケート

	保健師	医師等	看護師
良かった点	<p><b>【講義について】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・全てが分かりやすかった</li> <li>・当事者の話は、セクシュアリティを学ぶ機会はなかなかないので、大変貴重だった</li> </ul> <p><b>【ロールプレイについて】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・体験して初めて感じることも多く、対応の際のアドバイスがもらえたので、今後の業務に役立てたいし、職場でもやってみたいと思った</li> <li>・「自分が当事者だったら」と、自分のこととして考えることができた</li> </ul> <p><b>【研修会全体を通して】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・まだまだ知らないことも多いと反省し、貴重な機会になった</li> </ul>	<p><b>【講義について】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・全て分かりやすかった</li> <li>・セクシュアリティについての理解が深まった</li> </ul> <p><b>【ロールプレイについて】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ロールプレイによって学習が深まった</li> <li>・自分の地域で活用したい</li> <li>・昨年度のロールプレイよりも良かった</li> </ul>	<p><b>【講義について】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・基礎的な内容で分かりやすかった</li> <li>・初めて知ったことも多かった</li> <li>・セクシュアリティについて初めて当事者の思いや葛藤を聞いて大変参考になった</li> <li>・地域での関わり的重要性を理解できた</li> <li>・本県の実情を初めて知ることができた</li> </ul>
改善点	<p><b>【ロールプレイについて】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・検査に従事したことがないので、検査業務の実際の流れをロールプレイの前に学べると良いと思う</li> </ul>	(回答なし)	<p><b>【研修会全体を通して】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・保健所から医療機関へ紹介した後の援助についても踏み込んでほしかった</li> </ul>
要望や感想	<p><b>【要望】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・この研修は、この参加型のスタイルで毎年続けてほしい</li> <li>・担当業務を問わず、県の保健師はみんな受けられるようにしてほしい</li> <li>・医療機関への紹介方法について県で統一したマニュアルを作成してほしい</li> </ul>	<p><b>【感想】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・“ごく自然に”という対人援助場面の姿勢の大切さと難しさを理解した</li> </ul>	<p><b>【感想】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・HIVの研修会は多く参加しているが、保健師や当事者を交えた研修会は初めてであり、今後も参加したい</li> </ul>

### 3-3-5. 研修会後

研修会から数か月後、中核拠点病院において、保健所から医療機関への紹介方法を協議するために、県主導による合同カンファレンスが開催されることとなった。参加者は、県担当者4名、県保健師1名、筆者を含む中核拠点病院カンファレンスメンバー16名であった。協議の結果、①匿名性を担保し、受検者の心情に配慮した保健所から医療機関への紹介方法について、②県担当者が県で統一した紹介状と返書の様式をつくること、の2点が確認された。そして、これらの結果を県担当者から県内全保健所へ通知することも確認された。

### 3-4. 2016年度研修会について

#### 3-4-1. 企画者による事前協議

県担当者から筆者へ、研修内容の検討の依頼と、県担当課の諸事情により、研修時間を3時

間弱しか取れないことが報告された。筆者は、これまで実施したようなロールプレイを行うことと、前年度振り返り会で確認したような内容を盛り込むことは難しいと考え、研修内容を、① HIV 感染症の基礎知識を学ぶ講義主体の構成にすること、②施設間情報交換の場を設定すること、の2点を軸とすることを提案し、県担当者も了承した。講師は、中核拠点病院医師、Rin かごしま、県保健師、中核拠点病院相談員が担うこととした。

### 3-4-2. 企画者と講師による事前打ち合わせ会

企画者及び講師の一人である Rin かごしまによる事前打ち合わせ会を開催した。まず、参加希望者への事前アンケート結果を確認した。参加希望者25名で、保健師9名、看護師12名、医師3名などであった。そのうち回答が得られたのは24名であった（回収率96%）。研修会で学びたいことについて、「他機関との連携について」「検査相談対応の際の留意点を知りたい」といった記述が見られた。筆者は派遣カウンセラーとしての経験から、受検者や患者の不安の高い状態にある仮想事例を基にした情報交換の場の設定を提案した。事前アンケートの結果と筆者の提案をもとに、プログラムと研修内容について協議した。なお本会后も、筆者と講師間で研修内容について繰り返し検討した。

### 3-4-3. 研修会当日

参加者は20名であった。プログラムと講師を表5に示した。主にグループディスカッションについて述べる。参加者は保健所職員（以下、保健所グループ）と医療機関職員（以下、医療機関グループ）に大別され、さらに4人程度にグルーピングされた。保健所グループには、「即日検査において判定保留で確認検査が必要であることを保健師として伝える」という仮想場面を提示した。そして、自施設の対応の準備状況に関する情報交換と、受検者の気持ちやニー

表5 2016年度研修会プログラム

形態	タイトル	内容	講師
講義 (75分)	オリエンテーション	・研修会に関するオリエンテーション	県担当者
	鹿児島県における HIV 感染症の現状と HIV 検査	・ HIV 感染症の治療や対応 ・ 早期検査や早期治療のメリットとは何か	中核拠点病院医師
	HIV 検査担当者向け研修会（大阪）報告	・ 研修会報告	県保健師
グループ ディスカ ッション (65分)	職種別意見交換及び情報交換	・ 職種別グループディスカッション	ファシリテーター； 中核拠点病院相談員 協力スタッフ； 中核拠点病院相談員、 NPO 法人 Rin かごしま
	保健所と中核拠点病院の紹介システムについて	・ 紹介システムの確認（報告）	県担当者
	告知を受けるということ	・ 陽性告知時の受検者の心理的背景について（ミニレクチャー）	NPO 法人 Rin かごしま

ズ、及び、それを踏まえた受検者への対応のありかたについての意見交換をさせた。医療機関グループには、「自施設入院中の患者の HIV 検査の結果、陽性であった。担当医は病状から暫くの間入院が必要であると判断しているが、病棟スタッフの中には管理とケアに関する不安の声が上がっている」という仮想場面を提示した。そして、当該患者の気持ちやニーズ、及び、それを踏まえた当該患者への対応のありかたについての情報交換をさせた。全体シェアリングでは保健所と医療機関で対応する受検者や患者のニーズの相違について確認した。

### 3-4-4. 企画者と講師による振り返り会

研修会終了直後に、県担当者と講師で本研修会の振り返り会を行った。参加者は7名であった。まず、事後アンケート結果を確認した。回答が得られたのは20名であった（回収率100%）。表6に結果を一部抜粋した。職種を問わず概ね良好な評価が得られ、「いろいろな職種の人と情報交換ができて良かった」という記述が多く見られた。改善点として、研修時間の

表6 2016年度研修会事後アンケート

	保健師	医師等	看護師
良かった点	<p>【グループディスカッションについて】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・いろいろな職種の人と話ができて良かった</li> </ul> <p>【研修会全体を通して】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・とても内容の濃い研修で勉強になった</li> </ul>	<p>【講義について】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・知識が増えた</li> <li>・当事者の方の声を聴けたことで心に何かが残った</li> </ul> <p>【グループディスカッションについて】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・グループが少人数で意見交換しやすかった</li> </ul> <p>【研修会全体を通して】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の未熟さを知った</li> </ul>	<p>【講義について】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・知識が増えた</li> <li>・当事者の話を聴いて、HIV 陽性者への声掛けの方法を知ることができてよかった</li> </ul> <p>【グループディスカッションについて】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・いろいろな情報が聞けて勉強になった</li> <li>・自施設だったらどうするかと思いながら意見交換できたので、今後に活かしたい</li> </ul>
改善点	<p>【研修時間について】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・時間が短かった</li> </ul>	<p>【研修時間について】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・グループディスカッションの時間がもっと長くても良いと思った</li> </ul>	<p>【研修時間について】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・グループディスカッションが大変有意義だったのでもっと時間が欲しかった</li> </ul> <p>【研修会全体を通して】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・医療従事者としての情報をもっと知りたかった</li> </ul>
要望や感想	<p>【要望】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・啓発活動として県からのポスターや保健所に検査の案内をする等のみにとどまっているが、他にどんな取り組みが必要か、検討する機会が欲しい</li> </ul>	<p>【感想】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・また参加したい</li> </ul>	<p>【感想】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・当事者の講義は大変勇気がある、この方々の存在はたくさんの人の助けになると思った</li> </ul>

短さを指摘する記述が多かった。これらの結果から次年度の研修会では、①研修時間の再検討、②事前アンケートにおいて、検査相談対応のありかたを学びたいという参加者のニーズも多かったことから、ロールプレイを行った上で参加者同士の意見交換の場を設定するとより一層学びが深まると思われること、の2点を確認した。

## 4. 考察

### 4-1. 研修会実施が地域連携にもたらした効果

矢永（2009）は研修のあるべき姿について、中央から有名な講師を招聘し、その講師の意図に沿って何かを伝授してもらうというのではなく、企画者が自分の地域のなかで講師を務めることができる人材を見つけ、その講師とチームを組みながら、現場の人たちに対し、地域の特徴・課題を踏まえたプログラムを提供することであると指摘している。本研修会はこの指摘をまさに実践したものであり、さらに、①企画者の機能、②地域における専門家の連携とチームワーク、③研修内容の充実、については以下の特徴があったと思われた。

①について、筆者は企画者として県担当者との事前協議において、HIV/エイズが内包する様々な領域を年度ごとに個々に取り上げる研修内容ではなく、本県特有の課題をより反映させた研修会にすべきであろうという一貫したビジョンの下、検査相談に焦点を当てることと、様々な職種の講師を全て県内から選出することを提案した。2016年度においては県担当課の諸事情により研修時間が前年度より短縮されることになったが、その際でもこのビジョンは保ち続けながら研修内容を工夫することに務めた。研修会において企画者の果たすべき機能とは、一貫したビジョンの下に研修内容や講師の選出を行うことであり、それにより、地域における専門家である参加者に対して本県の特徴や課題を踏まえた研修内容を提供することが可能となったと思われた。

②について、研修内容を検討する企画者と講師との事前打ち合わせ会を行ったことで、本県特有の課題の抽出と受検者の心理的背景やニーズを踏まえた検査相談対応のありかたを参加者に還元するという、新たな志向性を持つ企画者と講師のチームが形成されたと思われた。また、このような志向性を持った企画者と講師が研修会で並び立ったことで、参加者に対して本県における関係機関、地域資源、人的資源を目に見える形で提供でき、県内における連携の基礎づくりにつながったと推察された。さらに、企画者と講師は、参加者が研修会で学びたいこととして自地域及び自施設の抱える諸問題やニーズを記述した事前アンケートを加味した研修内容を作り上げる作業を繰り返した。これらの作業を通して、企画者と講師及び参加者が地域特有の問題を共有するというチームワークが形成されたことにより、地域の活性化につながったと推察された。

③について、本研修会では、事前アンケートを取った上で、検査相談対応に必要な知識や受検者の思いを学ぶ講義と、それらを踏まえたロールプレイを軸とした研修を行い、事後アンケートによる研修会の効果を測定した。事後アンケートの結果のみでの評価ではあるが、概ね良好な評価が得られ、「当事者と医療機関と行政が協力してエイズ感染予防が進むような県民に対する効果的な取り組みを考えたい」、「予防啓発活動として自分の担当部署でどんな取り組みが有効か考えたい」という記述も見られた。これらから、参加者は研修会を通して、検査相

談における諸課題を身近な問題として理解できたこと、さらには本研修会が参加者の自発性、主体性、専門性を育み、参加者に自分達でできることを職場に持ち帰って取り組む姿勢をもたらしたと考えられた。

また、事前アンケートや事後アンケートの「関係機関の連携の取り方を知りたい」、「参加者同士の情報交換を行いたい」という記述より、2015年度と2016年度は全体討論や施設間情報交換の場を加えて研修内容を充実させたことで、参加者が研修会において他職種の考えや他施設の活動を具体的に知ることができ、関係者の連携強化につながったと思われる。さらには、2015年度の研修会で取り組んだように、研修会当日の全体討論によって参加者自身が県内における検査相談業務の質の標準化の必要性を実感でき、県主導による保健所から中核拠点病院への紹介システム構築を通して、県全体の関係機関連携が可能となったと考えられた。

これら3点の特徴を有した研修会の実施が地域連携にもたらした効果とは、県内の HIV 関係機関における人と人、組織と組織の連携を強化し、さらには県主導による地域連携システムを構築できたことであつたと思われ、本研修会はそのための企画運営上の工夫や配慮を具体的に示したと考えられた。

#### 4-2. 派遣カウンセラーが研修会の企画運営に携わることの意義

HIV 検査の受検動機や、その心理的背景は多様である。受検動機として、「情報に触れて心配になったから」（金子・内海・市川，2007）や、受検時の心理的背景として、検査によって陽性と判明した場合の恐怖心や、生活への様々な影響に対する心配、受検者自身の HIV 感染症（者）に対する偏見や誤解（島田，2012）などが挙げられている。また、HIV 感染における心理的影響は、感染の疑いをもち始めた時に始まり、HIV 検査受検の時期、HIV 感染判明（告知）直後、抗 HIV 薬治療開始前後、治療継続中というように、臨床経過と共に心理状態も重層的な様相を示している（野島・矢永，2002）。これらのことから HIV 検査相談は受検者の個別性の高さに配慮した対応が望まれる。

筆者は派遣カウンセラーとして、保健所における受検者への心理的援助を行う中で受検者個々の心理状態やニーズを把握できる立場にある。同時に、医療機関における HIV 陽性者への心理面接を行う中で、HIV 陽性告知時の体験が抗 HIV 薬治療中の心理状態に影響していることも把握できる立場にある。個別性の高い HIV 検査相談対応を学ぶロールプレイにおいて、筆者が把握している受検者の心理的背景やニーズを反映させた仮想事例を設定したことや、より実践的な相談対応のありかたについて概説したことで、参加者のスキル向上の一助となったと思われた。

また筆者は、保健所においては保健師と、医療機関においては医師や看護師と協働する中で、HIV 検査が匿名で行われるゆえに、保健所と医療機関双方が互いの実践のありかたを知る機会が少ないことを把握できる立場にあつた。両組織を把握している派遣カウンセラーが研修会の企画運営に携わることで、双方の実情に応じた連携や紹介システムに関するテーマを扱うことができ、研修会をきっかけとして両組織間の関係性を支えることができたと思われた。このことにより、受検者の匿名性を保持した双方の連携を強化することが可能となったと推察された。

## 5. 今後の展望

本研究の結果より、今後は参加者が実際の現場でどのように研修内容を生かしているのかについてフォローアップアンケート等による調査を行う必要があると思われた。

国連合同エイズ計画（UNAIDS）は、2020年までに“Care Cascade 90-90-90”（全 HIV 感染例の90%が検査を受け、そのうちの90%が治療を受け、90%が治療を継続してウイルス量を抑制する）を達成することを提唱した。これによって、全感染例の73%でウイルスが測定感度以下になり、新規感染が抑えられるというシナリオであり、このモデリングがうまくいくと2030年までに、HIVの拡大を阻止できるという計算になる。これらを達成するために、本県においても予防啓発を含めたさらなる HIV 検査相談体制の充実を図ることが重要であろうと思われた。

## 6. 結語

2014年から2016年における研修会実施の効果検証を行った。研修会実施が地域連携にもたらした効果として、県内から講師を選出したことで、本県の課題を抽出することが可能となり、関係者間の連携強化につながり、さらには県主導の地域連携につながったと推察された。また、派遣カウンセラーが研修会の企画運営に携わることで、個別性の高い HIV 検査相談対応を学ぶ研修参加者のスキル向上の一助となったこと、匿名性を保持した関係機関の連携強化が可能となったと思われた。今後は予防啓発を含めたさらなる検査相談体制の充実を図ることが重要であろうと思われた。

## 謝辞

いつも多大なご支援を頂いている、鹿児島県保健福祉部健康増進課と NPO 法人 Rin かごしまの皆様、鹿児島大学病院輸血・細胞治療部古川良尚先生、同薬剤部屋地慶子先生、同臨床心理室小山徹平先生、昭南病院榎山春香先生に厚く御礼申し上げます。本稿の要旨は第30回日本エイズ学会学術集会において報告しました。

注：「HIV 感染者」より「HIV 陽性者」という呼び方が当事者にとっては好ましいということから、本稿では「HIV 陽性者」と表記した。

## 引用文献

- 井上洋士・高久陽介・矢島嵩・生島嗣（2015）. 受検者が HIV 感染告知担当者に伝えた感染経路と「実際の HIV 感染経路」との相違についての検討 日本公衆衛生雑誌, 62, 106-116.
- 今井光信・矢永由里子・今井敏幸・狩野千草・高田知恵子・岳中美江・塚田三夫・辻麻里子・丸山正博（2008）. HIV 検査相談研修ガイドライン基本編 HIV 検査相談機会の拡大と質的充実に関する研究班事務局, 1-159.
- 今井光信・矢永由里子・今井敏幸・狩野千草・源河いくみ・小泉京子・高田知恵子・岳中美江・塚田三夫・辻麻里子（2009）. HIV 検査相談研修ガイドライン実践基礎編 HIV 検査相談機会の拡大と質的充実に関する研究班事務局, 1-134.



- 金子典代・内海眞・市川誠一 (2007). 東海地域のゲイ・バイセクシュアル男性の HIV 抗体検査の受検動機と感染予防行動 日本看護研究学会雑誌, 30(4), 37-43.
- 加藤真吾・矢永由里子・今井敏幸・加藤朋子・狩野千草・源河いくみ・小泉京子・高田知恵子・岳中美江・塚田三夫・辻麻里子 (2010). HIV 検査相談研修ガイドライン実践応用編 HIV 検査体制の充実と活用に関する研究班事務局, 1-51.
- 厚生労働大臣 (2012). 後天性免疫不全症候群に関する特定感染症予防指針 厚生労働省告示第21号
- 厚生労働省エイズ動向委員会 (2016). 平成27 (2015) 年エイズ発生動向年報
- 厚生労働省健康局疾病対策課 (2006). 平成18年度 HIV 検査普及週間の実施について Retrieved from <http://www.mhlw.go.jp/houdou/2006/05/h0529-1.html> (2017年8月28日)
- 厚生労働省健康局疾病対策課長 (2004). 「HIV 検査の実施について」の改廃について (HIV 抗体検査に係る迅速な検査方法の導入等) 健疾感発第1029004号
- 厚生省保健医療局長 (1993). 保健所におけるエイズストップ作戦関連事業について 健医発第406号
- 厚生省健康政策局計画課長・厚生省保健医療局結核難病感染症課感染症対策室長 (1987). エイズ対策の推進について 健医感発第20号
- 野島一彦・矢永由里子 (編) (2002). HIV と心理臨床—最前線からの報告：心理臨床の実践と課題, そしてあらたな展開に向けて・・・— ナカニシヤ出版
- 佐野貴子・加藤真吾・今井光信 (2015). HIV 無料・匿名検査相談の役割—保健所等 HIV 無料・匿名検査相談施設における HIV 検査の現状と課題— 日本エイズ学会誌, 17, 125-132.
- 島田恵 (2012). 検査から始まる感染症患者の看護—HIV 抗体検査と告知から— 臨床と微生物, 39, 80-83.
- 嶋貴子・一色ミユキ・近藤真規子・塚田三夫・潮見重毅・今井光信 (2006). 保健所における HIV 即日検査導入の試みとその効果 日本公衆衛生雑誌, 53, 167-177.
- 須藤弘二・佐野貴子・近藤真規子・今井光信・加藤真吾 (2015). HIV 郵送検査の現状と展望 日本エイズ学会誌, 17, 138-142.
- UNAIDS. (2014). FAST-TRACK : Ending the AIDS epidemic by 2030. UNAIDS. Retrieved from [http://www.unaids.org/en/resources/documents/2014/JC2686\\_WAD2014report](http://www.unaids.org/en/resources/documents/2014/JC2686_WAD2014report) (August 28, 2017.)
- 矢永由里子 (2009). HIV 検査相談の研修ガイドラインの作成—対応の標準化を目指して— 日本エイズ学会誌, 11, 1-7.
- 矢永由里子・今井光信・加藤真吾 (2014). 研修事業の取り組み：研修をデザインすること—HIV 検査相談研修におけるガイドラインの作成から普及までのプロセスを通して— 日本エイズ学会誌, 16, 185-194.

原稿受領日：平成29年8月30日；Received 30 August 2017

掲載受理日：平成29年12月7日；Accepted 7 December 2017